

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院 事務部施設管理課
	電 話 番 号 等	03-5605-8811 (代)
公表の 担当部署	名 称	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院 事務部診療情報管理課
	電 話 番 号 等	03-5605-8811 (代)

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： http://www.tokyorinkai.jp
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所： 東京臨海病院内 事務部総務課
		所在地： 東京都江戸川区臨海町一丁目4番2号
		閲覧可能時間 9:00から17:00 (土曜、祝日、年末年始は除く)
	冊 子	冊子名：
入手方法：		
そ の 他	アドレス：	

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	2002	年	4	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

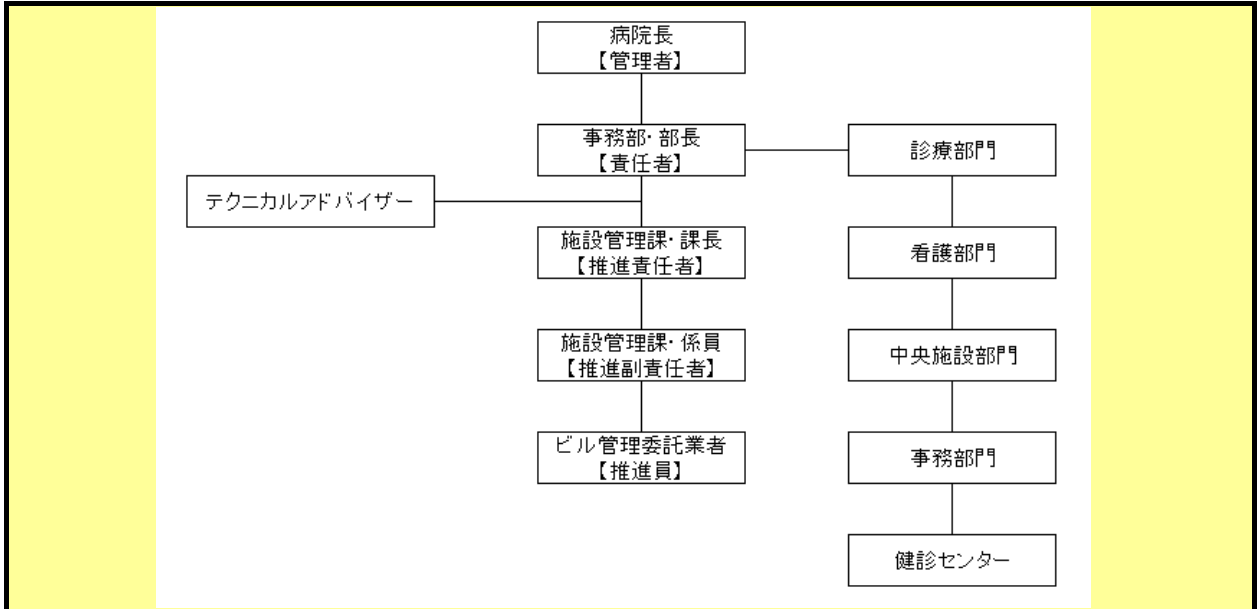
2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

各設備機器のエネルギー管理標準を作成し、エネルギー使用の合理化に関する措置を講じることによって、地球温暖化効果ガスを削減し、燃料資源の有効な利用にすることを基本方針とする。また、エネルギーの合理化を推進するため事務部長を責任者とし、診療部門、看護部門、中央施設部門、事務部門、健診センター、ビル管理委託業者で構成する委員会を設置している。今後の課題としては、建物が21年目となり高効率機器への設備更新とガラス面からの負荷の軽減を検討するとともに、各部署の省エネに対する意識の向上に努めたい。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

- ・再エネを導入している電力会社への切り替えを検討する。
- ・太陽光パネル等、再エネ設備の導入を今後の課題とする。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	LED電球・照明器具への更新、熱源機器の定期的な整備と熱源機器更新の高効率化で総量削減義務(25%)の削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス(その他ガス)は水道の使用及び下水道の排出に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。今後の節水を検討し2%以上削減することを目標にする。		
削減義務の概要	基準排出量	6,456 t(二酸化炭素換算)/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量(削減義務期間合計)	24,210 t(二酸化炭素換算)	平均削減義務率	25%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	引き続き、LED電球・照明器具への更新、熱源機器の整備・更新などにより、第三計画期間以上の削減を目標とする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	引き続き節水を行うことで、その他ガスを現状の2%以上削減した状態を維持する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		5,283	5,204	4,540		
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)					
	メタン(CH ₄)					
	一酸化二窒素(N ₂ O)					
	ハイドロフルオロカーボン(HFC)					
	パーフルオロカーボン(PFC)					
	六ふっ化いおう(SF ₆)					
	三ふっ化窒素(NF ₃)					
上水・下水		49	44	43		
合計		5,332	5,248	4,583		

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	131.1	129.2	112.7		

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2003年度・2004年度・2005年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2020 年度から 2024 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	6,456	6,456	6,456	6,456	6,456	32,280
	削減義務率 (B)	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	
	排出上限量 (C = ΣA - D)						24,210
	削減義務量 (D = Σ(A × B))						8,070
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	5,283	5,204	4,540			15,027
	排出削減量 (F = A - E)	1,173	1,252	1,916			4,341

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	低炭素電力事業者の受け入りにより、特定温室効果ガスの排出量が減少した。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	120400	12_補機の運転管理	冷温水発生機用冷却水ポンプインバーター化	2009年度	冷却水ポンプ90KWをインバーター化
2	120400	12_補機の運転管理	冷水発生機用冷却水ポンプインバーター化	2009年度	冷却水ポンプ30KWをインバーター化
3	120600	12_廃熱回収の管理	廃熱利用熱交換器と自動弁設置	2009年度	コジェネ排熱利用の暖房用熱交換器設置
4	120700	12_蒸気の漏えい及び保温の管理	蒸気弁の断熱	2006年度	蒸気弁及び蒸気自動弁を断熱
5	130100	13_空気調和の管理	空調機の間欠運転	2009年度	共用部及び外気導入用の空調機を間欠運転とした
6	130100	13_空気調和の管理	共用部のファンコイルの運転停止	2009年度	中間期だけ運転停止
7	160200	16_建物の省エネルギー	3階ICUの窓面に遮光フィルム	2010年度	南面とに紙面に遮光フィルムを貼る(約56㎡)
8	130100	13_空気調和の管理	外気冷房による冷熱源停止	2008年度	冬季に外気冷房する事で冷熱源機器の稼働率が減少
9	320100	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの空気比管理	2007年度	ボイラーの空気比の管理を定期的実施
10	150200	15_照明設備の運用管理	LED電球への交換	2009年度～	外来受付、ブラケット、洗面(108ヶ)・病棟ブラケット(176ヶ)
11	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具への交換	2013年度～	1階各所ダウンライト(53台)
12	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具への交換	2013年度～	1階2階外来待合天井ダウンライト(79台)
13	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具への交換	2014年度～	1階トイレ天井ダウンライト(10台)
14	150300	15_事務用機器等の管理	電子カルテシステム更新	2008年度	サーバーの消費電力減少と端末をブラウン管から液晶に変更(320台)
15	150300	15_事務用機器等の管理	ITV設備更新	2011年度	ブラウン管モニター28台を液晶に更新
16	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具への交換	2015年度～	1階吹抜け照明(13台)

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17	120700	12_蒸気の漏えい及び保温の管理	熱交換器の断熱	2015年度	蒸気用温水熱交換器4台
18	329900	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	貫流ボイラ更新	2017年度	貫流ボイラ2台更新、台数制御装置更新、水質管理装置新設
19	329900	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	貫流ボイラ更新	2018年度	貫流ボイラ1台更新、台数制御装置更新、水質管理装置新設
20	120400	12_補機の運転管理	冷却塔ファンモーター更新	2016年度	2号冷却塔ファンモーターをトップランナーに更新 5.5w×5台
21	120400	12_補機の運転管理	冷却塔ファンモーター更新	2018年度	3号冷却塔ファンモーターをトップランナーに更新 5.5w×2台
22	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2018年度	UPS室パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新
23	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2018年度	サーバー室パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新
24	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2018年度	3階北系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
25	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2019年度	3階部長室系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
26	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2019年度	電気室パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新(1台)
27	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	電気室パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新(1台)
28	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	電話交換室パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新
29	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	皮膚科パッケージエアコンをインバータ搭載機器に更新
30	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	防災・健診系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
31	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	医事課系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
32	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	病院長系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
33	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	部長室系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
34	130200	13_空調設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	総合医局系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
35	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機のインバータ化	2020年度	エレベーター機械室ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
36	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機のインバータ化	2021年度	栄養科系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
37	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機のインバータ化	2021年度	当直室系統ビルマルチエアコンをインバータ搭載機器に更新
38	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具への交換	2021年度～	院内全ての照明器具を対象とし、順次更新
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91	180100	18_排出量取引	バンキング充当		
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当病院では、開院以来省エネルギーに積極的に取り組みCO₂の削減、経費の削減に努力している。
以下の内容で地球温暖化対策に取り組むことにより省エネに対する職員の関心が芽生えてきている。

1. 事業所での省エネの取組

施設管理課で率先して対策を行い省エネ工事を行うとともに、運転管理をビル管理委託業者と協力し効率的な運転を行うことで継続した温室効果ガスの削減が見込める。

建物の構造上、外壁やガラス面からの熱負荷が極めて多い中、現状の削減量についてはある程度満足できるものだと考えている。

また、積極的にコジェネを運転するとともに、夏場における電力制限に対しても職員はもちろんのこと、外来患者、入院患者にも協力をお願いし、冷房温度の設定を上げて運転する事ができた。

但し、昨年同様医療機器更新に伴う消費電力増加分が見込まれるため、照明器具のLED化を進めており、ガラス面からの熱量削減を検討している。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

対策できていないため、今後の課題としたい。